

【教科・学年・科目名】 家庭科・2 学年・家庭基礎

【授業者】 西 祐貴子

【授業形態】 ライブ配信 テキストベース

【授業の紹介】

オンライン学習試行期間の対応(4 月 当初は4 月中に通常授業再開予定)

家庭基礎の Google classroom をクラスごとに設置。

課題『暮らしの知恵を継承しよう』をストリームに投稿。

教科書を初めとした文献や身近な人の話から、暮らしの知恵を学び、可能なら自分で取り組み、その内容や取り組んだ感想を B 5 1 枚にまとめ、授業再開時に提出、とした。

週一回のペースで、Google フォームで、進捗状況に関する問いに答える課題を投稿。その時点での取り組み具合を把握した。

オンライン時間割開始後(5 月 登校再開が延期になり、オンライン授業が本格的に開始された)

Zoom による双方向の授業を開始した。

<第1回 授業前に行ったこと>

授業の資料(B4 両面1 枚)を Google classroom 授業に、資料として投稿。

資料と資料内に記載された教科書のページに、予め、目を通すように指示。

授業で使用するものを、連絡。

<第1回 授業>

家庭科の授業に関するガイダンス(通常の授業でも行っているのと同様のもの)

生活設計(ライフプラン)について学ぶ授業

現在から将来に向けて、ライフステージごとの課題について考えながら計画する生活設計の効用と限界について講義。その後、「3 5 歳の自分を出来るだけ詳しく具体的に思い浮かべる」ことから始め、「3 5 歳の時にそうなるためには、3 0 歳の時にどうなっているか」を、生徒が各自に用意した B4 程度の大きさの紙に書き、2 5 歳、2 0 歳・・・と現在に向けて同様のことを行う方法で、生活設計に取り組んだ。

極めて Private な内容となることが予想されるので、人生設計そのものの提出は求めず、Plan を立ててみた感想のみ、Google フォームで提出させた。提出が前提となると、体裁を整えてしまう生徒もいることから、「自分に正直に書く」ことを大切にした。

通常の授業でも生活設計に取り組む時間の長さは生徒によって大きく異なる。そこでオンライン授業でも、生活設計のポイント(出来るだけ詳しく具体的に、とはそういうことか)の指示を出した後は、各自での取り組みとし、特に質問がない生徒は Zoom から退室して取り組むことを許可した。

<第1回 授業後に行ったこと>

Zoom に上手く対応出来なかった生徒へのケア。課題の提出状況の確認。

他の教科科目では既に行っている、家庭科の Google classroom に参加する最初の授業であった。そのため、オンライン学習に苦手意識のある生徒は、参加に手間取るなど、不安を感じている様子であった。課題への限定コメントで助けを求めてくる生徒もあり、それに返信する、教員からメールを送る等に対応した。その際、上手いかなかったことを指摘するのではなく励ます内容になるよう心がけた。

4 月より先行実施していた教科から、「第一回目の授業は参加するところまでに、支援

が必要な生徒が相当数おり、たとえ上手く参加出来なくても、授業後に自分で取り組めるような課題の設定が大切である」との情報を得ていたのが、大いに参考になった。

<第2回 授業前に行ったこと>

授業の資料(B4 両面 1 枚)を Google classroom 授業に、資料として投稿。

予め、目を通すように指示。

<第2回 授業>

生活設計の振り返り

生徒が提出した感想に対応する形で、生活設計のまとめ（考えつかない、決められないのは悪いことではなく、それに気づき、周囲の人に話を聞いたり、進路先について調べたりすることが重要。生活設計は一度きりのものではなく、今後も修正を加えながら変化させるものである）を行った。今回は、新型コロナウイルスの影響で社会が大きく変わるだろうと言われる中での取り組みとなったことで、より一層真剣に取り組めたようだ。

『住まいを借りよう』

3 5 歳までの間に一人暮らしをする可能性のあることから、一人暮らしまたは友達や他の人とシェアして、暮らす住まい選びについて考え、意見を交換する授業とした。

まず、立地について簡単に説明し、(周囲の雰囲気や駅などの公共交通機関を初めとした諸施設のどれが自分には必要か) しばし各自で「自分が住むなら、どんなところが良いか」を考える。ブレイクアウトセッションで3~4人に分かれ、セッションごとに話し合う時間を設ける。(5分程度) 全体に戻ったところで、幾つかのセッションを指名し、どのような話し合いだったかを発表した。発表された内容を生かして、教員より補足を加えた。

次に、間取りや階数、設備等について「自分だったら、どれが必要か」を、しばし各自でイメージする。ブレイクアウトセッションで3~4人に分かれ、セッションごとに話し合う時間を設ける。(5分程度) 全体に戻ったところで、幾つかのセッションを指名し、どのような話し合いだったかを発表した。発表内容に添った補足を教員が加えた。

次回の説明(立地と部屋ごとの条件の他に、住まいを選ぶには家賃について考える必要があり、次回、それについて学ぶ)をし、次回までに、「自分の住みたいところ、希望する条件の部屋を借りるには、家賃と管理費が幾らぐらい掛かるのか」を、各自ネットなどで調べておくように、との課題を出し、特に質問等がない生徒には退室を許可した。

<第2回 授業後に行ったこと>

授業で提示した「生活設計の振り返り」に関するシートと、次回までの課題を Google classroom 授業に、資料として配信。画面が上手く表示出来なかった生徒や欠席した生徒に対して、メールや限定コメントなどで接し、オンライン授業への不安を軽減するよう努めた。

オンライン学習を行って

通常の授業の題材を基にオンライン学習を進めているが、個々の生徒の取り組む時間に大きな差が出るものやネットで情報を検索しつつ進めるものなどは、通常の授業より、オンライン学習の方が向いているようだ。

登校再開後しばらくは、コロナウイルス感染防止の観点から、グループ活動が難しいと聞く。ブレイクセッションを用いたオンライン授業の方が、むしろ行いやすい状況になるとも考えられる。